入院診療計画書

小児急性胃腸炎の治療を受けられる　（　　）様へ

病名　　年齢　　生年月日:　　薬剤師　森本 明美

主治医　　受持看護師　　病棟　　管理栄養士　川島 加奈

2 部 印 刷
1 部 : 患 者 ファ イ ル
1 部 : 患 者 様 用

<<DYTODAY_W>>

日　付	入院当日（1日目） 月　日	（2～4日目） 月　日　～　月　日	（5日目頃） 月　日
目　標	脱水症状の改善	水分、食事の摂取	退院へ
食　事	入院当日は原則として絶飲・絶食です。 症状が改善すれば水分（お茶・ポカリスエット・水）より始めます。	水分をとっても吐いたり腹痛がなければ、食事を開始します。 揚げ物や乳製品、柑橘類や生ものの摂取は控えて頂くようになります。	食事が始まっても、吐いたり、腹痛が起こることがなければ退院可能となります。
安静度	ベッド上で安静にしてください。トイレは室内を使用するか、ポータブルトイレをご使用ください。		
清　潔	一日一回、身体を蒸しタオルで拭きます。おしりが赤いなどの症状があるときは、おしり洗いなども行います。 （それ以外の必要時も看護師に声をかけてください）		
検　査	血液検査、尿検査、腹部X線撮影、細菌検査（便中の細菌）を行います。	治療中に熱がなかなか下がらない場合は、 治療開始後3～4日目に血液検査を行います。	解熱後、血液検査を行います。検査結果を確認して退院となります。 入院時の検査結果がほぼ正常で、抗生剤を使用していない場合は、退院時に血液検査は行いません。
注　射	1 点滴の開始 手の静脈に点滴をします。手に挿入が困難な場合は足の静脈に挿入します。 点滴の目的は、薬剤の投与と水分補給です。 2 抗生剤の点滴/静脈注射 1日2～3回、抗生剤の点滴/静脈注射を行います。 入院時の血液検査で炎症反応（CRP）が軽度か陰性の場合は、抗生剤を使用しないこともあります。 お薬などのアレルギー歴がある場合は医師または看護師にお知らせください。	点滴したところが腫れてくることがあり、この時は刺しかえが必要です。 熱が下がらず、血液検査で炎症反応もよくなっていない場合は、抗生剤を変更することがあります。	退院前には点滴を中止します。
内　服	現在内服中の薬剤があればお知らせください。		退院時、必要な薬の処方があります。
処　置	有熱時に、解熱剤を使用することがあります。 熱が十分に下がらない場合は、時間を空けて1日3回まで使えます。 また、吐き気や吐くことが続く時は吐き気止めの坐薬を使用します。		
看護援助	定期的に看護師が訪室し、状態の観察や検温を行います。症状に応じて安楽に過ごせるよう援助します。 薬や食品にアレルギー歴のある場合はお知らせください。		
説　明	病棟担当医が入院時の病状について説明します。 看護師が入院生活について説明します。 薬剤師がお薬について説明します。	病棟担当医が適宜、病状、血液検査の結果について説明します。	退院後の生活や内服、通院の有無は退院療養計画書を参照下さい。

※上記内容は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることもありますのでご了承ください

※ご質問等ございましたら気軽にスタッフへ声を掛けてください。

◇総合的な機能評価◇　☑ 評価対象外

・日常生活動作	☐ 問題なし	☐ 要経過観察
・認知機能	☐ 問題なし	☐ 要経過観察
・意欲	☐ 問題なし	☐ 要経過観察

※　特別な栄養管理の必要性　☑ 有　☐ 無

私は、上記診療行為について、主治医から十分な説明を受けました。

患者　又は　親権者・親族等サイン　　（続柄　　）